

# Disclosure 2015

ディスクロージャー誌



## ふくほうのシンボルマーク

グリーン三角は地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。この三角と円のハーモニーによって全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

## The Fukuho Bank, Ltd.

発行／平成27年7月  
編集／株式会社 福邦銀行 企画部  
〒910-0023 福井市順化1-6-9  
TEL／0776-21-2500（代表）  
<http://www.fukuho.co.jp>



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C022915



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用  
しています。



この印刷には、  
環境に配慮した  
植物油インキを  
使用しております。





取締役会長 三田村 俊文  
取締役頭取 東 條 敬

日頃は福邦銀行をお引き立ていただき誠にありがとうございます。  
このたび当行の経営方針や業績の概要などをまとめた「ディスクロージャ一誌2015」を作成いたしました。ご覧賜れば幸いです。  
さて、平成27年3月期決算におきましては、企業部門では輸出の持ち直しや在庫調整の進捗などを背景に生産が持ち直し、また収益は改善が続いており、前向きな投資スタンスを維持しております。家計部門では、雇用・所得環境の着実な改善が続く中、個人消費も全体として底堅く推移しております。海外経済は先進国を中心に回復し、輸出は持ち直しており、先行きも海外経済の回復・円安を背景に緩やかに増加していくものと考えております。  
また、福井県内経済においては、製造業の生産は緩やかに増加し、業種別では繊維で持ち直しの動きがみられ、眼鏡枠および部品は横ばい圏内で推移しており、化学は高水準の生産を維持しております。個人消費は、消費者マインドが改善するもとで、基調として緩やかに持ち直し、公共投資は高水準に推移しておりますが、住宅投資は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減が続いております。  
このような環境下、当行グループは「地域密着の徹底による経営強化」を基本戦略に、地域経済の活性化を通じて、「地域のお客さまとともに成長する銀行」を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年7月

| CONTENTS               | プロフィール                |
|------------------------|-----------------------|
| ごあいさつ、プロフィール…………… 1    | 名 称 株式会社福邦銀行          |
| 経営理念・基本戦略…………… 2       | THE FUKUHO BANK, LTD. |
| 業績ハイライト…………… 3         | 本店所在地 福井市順化1丁目6番9号    |
| 資産査定の状況・経営強化計画について…… 5 | 創 立 昭和18年11月5日        |
| 経営の組織…………… 6           | 資 本 金 73億円            |
| 地域のお客さまとともに…………… 7     | 総 資 産 4,557億円         |
| 地域密着型金融の推進…………… 8      | 預 金 4,231億円           |
| コーポレート・ガバナンス…………… 10   | 貸 出 金 3,167億円         |
| プライバシーポリシーほか…………… 13   | 自己資本比率 8.51%（国内基準）    |
| 関係会社の状況・沿革…………… 14     | 店 舗 数 39ヵ店            |
| 店舗一覧…………… 15           | 従 業 員 数 516名          |
| 主要な業務内容・役員…………… 16     |                       |
| お知らせ…………… 17           |                       |
| 資料編…………… 18            |                       |

経営理念

地域社会への貢献  
私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。  
健全なる経営  
銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。  
活力ある職場  
私どもが人間として尊厳を勝ちとるための練成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。

福邦の心

至誠の心  
信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。  
和の心  
お互いの立場を理解し、喜びを分かち合う心を育てます。  
進取の心  
変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。  
共存共栄の心  
お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

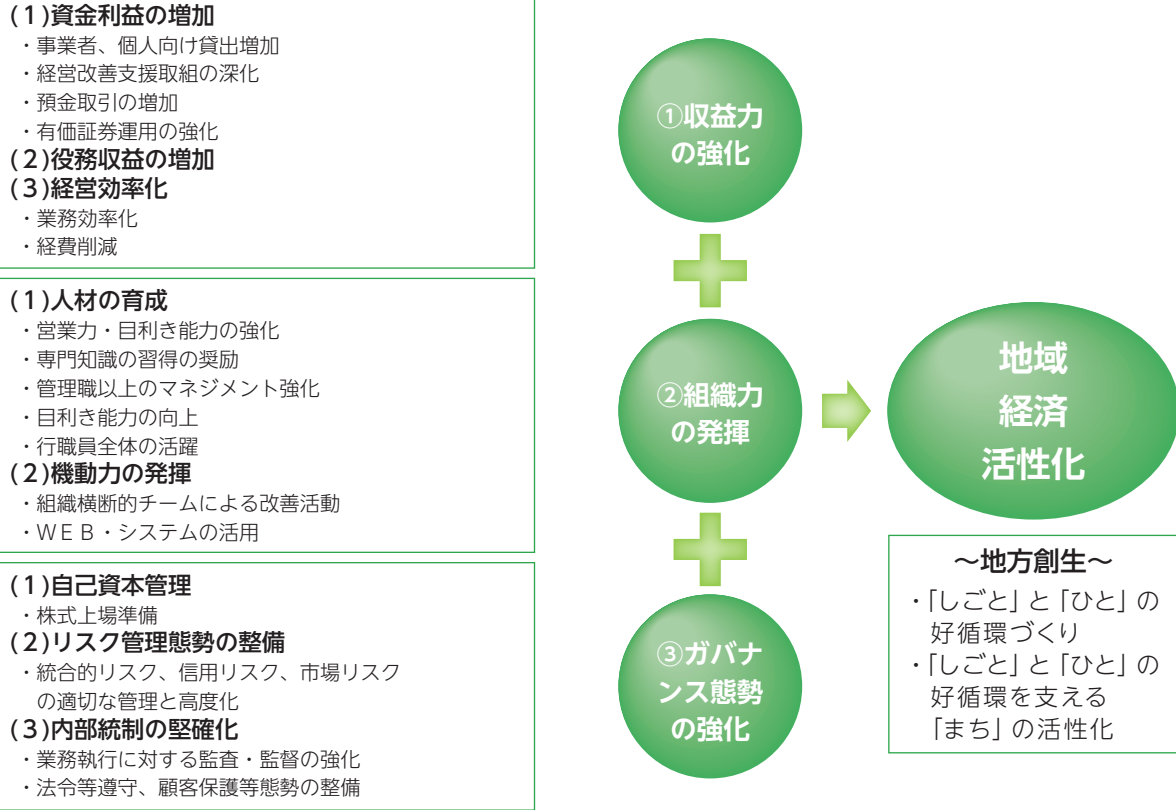
目指す銀行像

地域のお客さまとともに成長する銀行

基本戦略

地域密着の徹底による経営強化  
～お客様第一に徹し、福井県内でのシェアを高めていく～

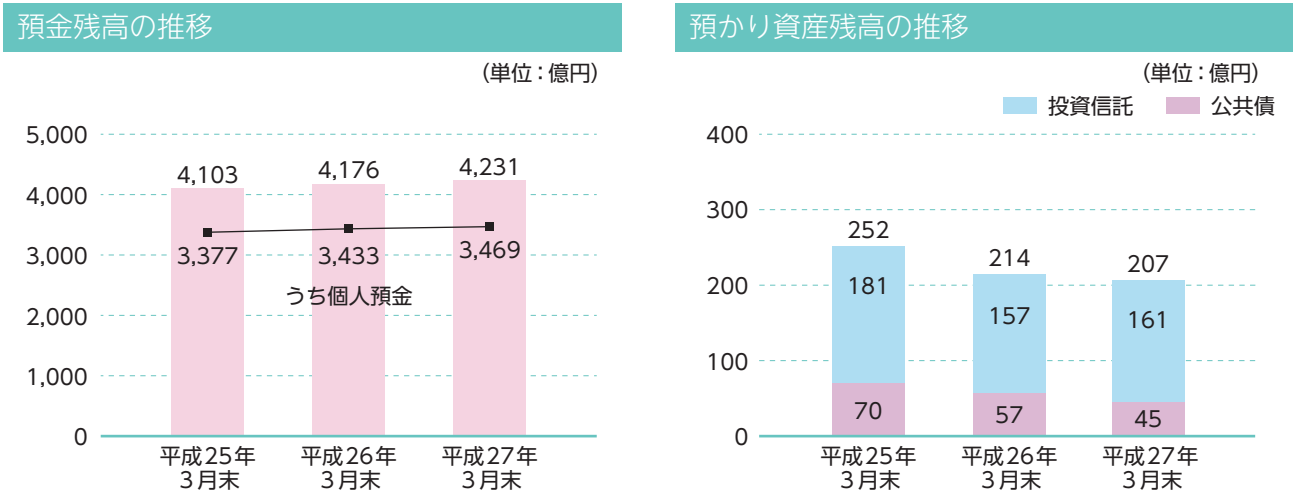
地域のお客さまに信頼されるために  
「収益力」を高め、安定した収益により自己資本を積み上げていきます。  
地域のお客さまに相談されるために  
成長志向の専門性ある行員が、責任をもって、ご相談に承ります。  
地域のお客さまの成長のために  
「組織力」「機動力」を発揮し、スピードある解決提案を行なっていきます。



# 業績ハイライト

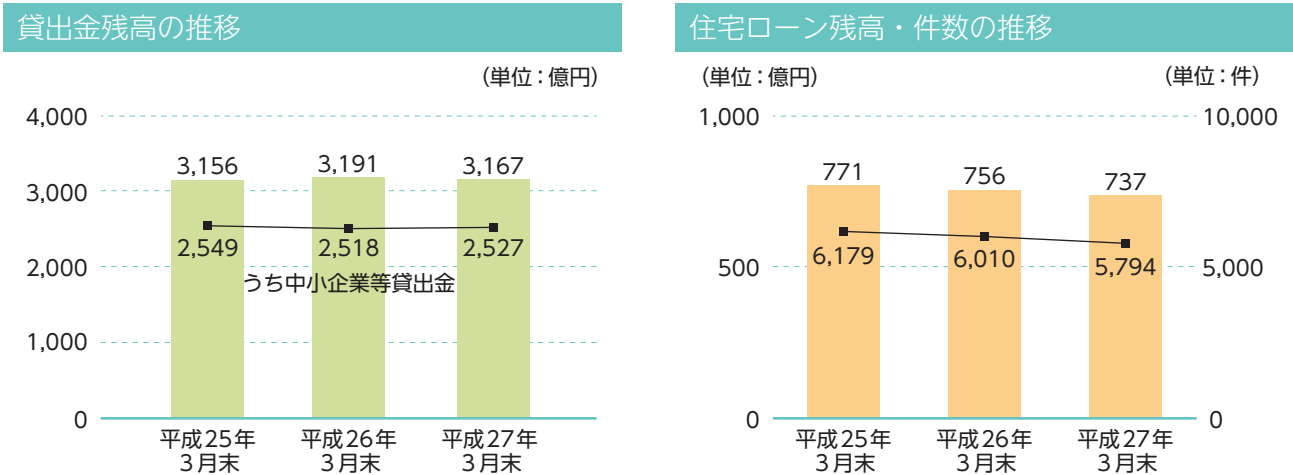
## ■ 預金等の状況（単体）

預金残高は、個人預金及び法人預金が増加したことにより、前期末比54億円増加の4,231億円となりました。  
預かり資産残高は、公共債が減少したことにより、前期末比7億円減少の207億円となりました。



## ■ 貸出金の状況（単体）

貸出金残高は、事業性貸出及び消費者ローンともに減少したことから、前期末比24億円減少の3,167億円となりました。



(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社または常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等です。

## ■ 損益の状況（単体）

銀行の本業部分の収支を示すコア業務純益は、貸出金利息の減少に伴う資金利益の減少により、前期比3億12百万円減少し、12億63百万円となりました。

経常利益は、コア業務純益の減少に加え、与信関係費用が増加したことにより、前期比4億84百万円減少の12億2百万円となりました。

当期純利益は、経常利益の減少により前期比1億84百万円減少し、9億63百万円となりました。

| コア業務純益   |       | 経常利益     |       | 当期純利益    |       |
|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| (単位：百万円) |       | (単位：百万円) |       | (単位：百万円) |       |
| 平成25年3月期 | 1,321 | 平成25年3月期 | 1,056 | 平成25年3月期 | 860   |
| 平成26年3月期 | 1,575 | 平成26年3月期 | 1,686 | 平成26年3月期 | 1,148 |
| 平成27年3月期 | 1,263 | 平成27年3月期 | 1,202 | 平成27年3月期 | 963   |

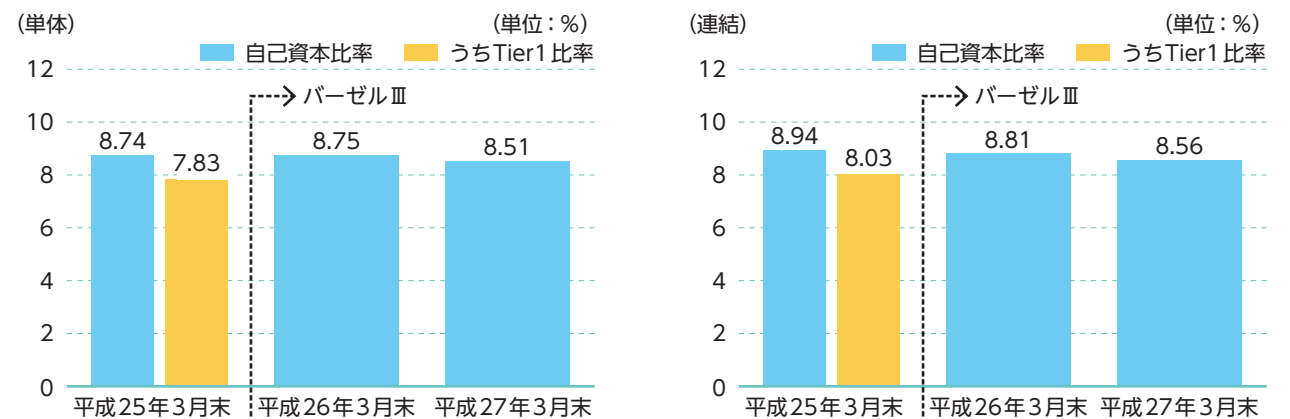
用語解説 〈コア業務純益〉

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一時的な変動要因（債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額）を差し引いたものです。

## ■ 自己資本比率の状況（国内基準）

自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられています。平成27年3月末のリスク・アセット（万一の場合、貸倒れの危険性のある資産）に対する自己資本の額は銀行単体191億円、連結193億円、自己資本比率は単体8.51%、連結8.56%となっております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、平成26年3月末より新しい自己資本比率規制（バーゼルⅢ新国内基準）により自己資本比率を算出しております。



## ■ 対処すべき課題

地域金融機関を取り巻く環境は、人口減少や高齢化、金融機関の競合等により、厳しさを増しております。このような環境の中、当行はお客様との間で長く続いた親密な関係を強化・維持し、ニーズに応じた金融サービスを提供する地域密着型金融の推進を基本とし、お客様の成長を支援し、地域・お客様・当行の3者が共に発展するというビジネスモデルを確立させていく必要があると考えております。

当行は平成26年度より、「地域のお客さまとともに成長する銀行」を目指す銀行像として掲げ、第3次経営強化計画をスタートさせております。基本戦略として「地域密着の徹底による経営強化」を掲げ、地域のお客様に対して信頼され、相談され、成長を支えることで福井県内のシェアを高めていくことを目指してまいります。

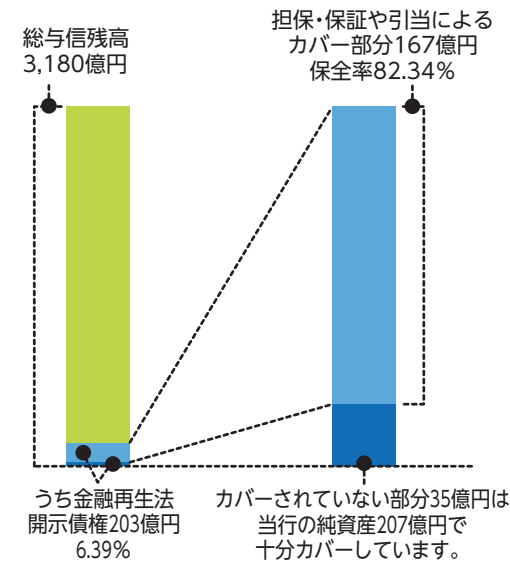
その基本戦略に基づき、経営強化計画の目標を達成するための主な課題として①収益力の強化、②組織力の発揮、③ガバナンス態勢の強化を置き、これまでの計画において掲げた各施策を継続し、そのレベルと実績を着実に高めてまいります。

資産査定の状況・経営強化計画について

なお、金融再生法開示債権203億円には、担保保証のほか、将来的に損失を被ることに備え、すでに費用として引当てしている部分も含まれております。開示債権に対する保全額は167億円、保全率は82.34%あり、将来的な損失にも十分に備えております。

金融再生法に基づく開示債権額

| (単位：百万円)          |          |          |          |
|-------------------|----------|----------|----------|
|                   | 平成25年3月末 | 平成26年3月末 | 平成27年3月末 |
| 金融再生法開示債権合計       | 21,624   | 20,692   | 20,339   |
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 2,519    | 1,987    | 3,008    |
| 危険債権              | 17,378   | 16,462   | 15,661   |
| 要管理債権             | 1,725    | 2,242    | 1,669    |
| 保全額               | 19,664   | 18,187   | 16,748   |
| 貸倒引当金             | 5,216    | 4,910    | 4,790    |
| 担保保証等             | 14,448   | 13,276   | 11,957   |
| 総与信残高（末残）         | 317,544  | 320,775  | 318,098  |



※①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権

②危険債権とは債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権

③要管理債権とは3ヵ月以上延滞債権（元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権）および貸出条件緩和債権（経済的困難に陥った債務者の再建または支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定などを行った貸出債権）（注）いずれも①②を除く。

## ■ 経営強化計画について

当行は、第3次経営強化計画（平成26年度～平成28年度）における経営改善の目標値として、収益性においてはコア業務純益の増加、業務の効率性においては業務粗利益経費率の改善を掲げ、様々な施策に積極的に取り組んでまいります。

### (1) 収益性を示す指標

| (単位：百万円) |            |
|----------|------------|
|          | 平成29年3月期計画 |
| コア業務純益   | 1,784      |

## (2) 業務の効率性を示す指標

| (単位：％)   |            |
|----------|------------|
|          | 平成29年3月期計画 |
| 業務粗利益経費率 | 62.30      |

※業務粗利益経費率=(経費－機械化関連費用)／業務粗利益

## ■ 経営諮問委員会の設置

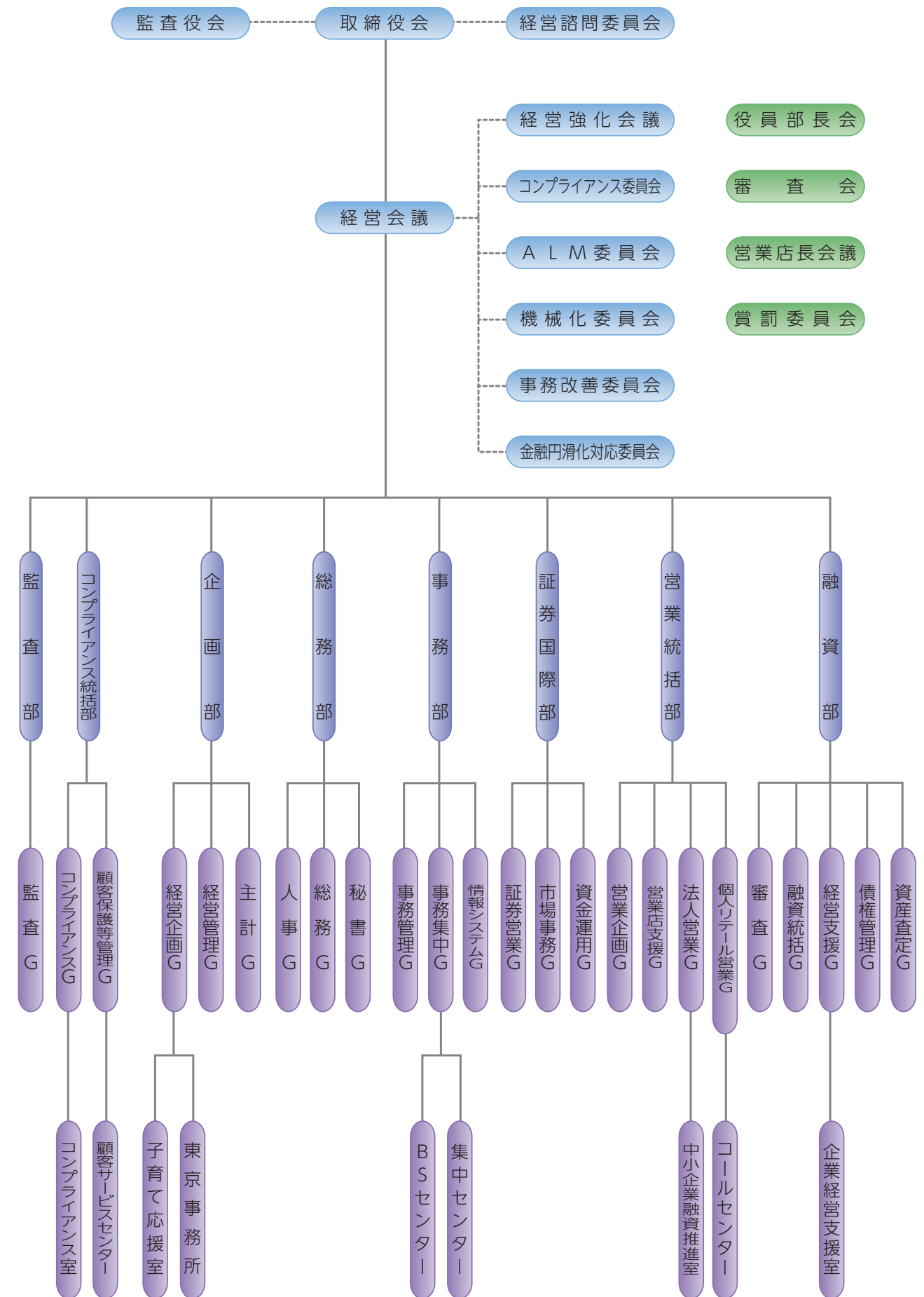
当行では、取締役会の諮問機関として経営諮問委員会を設置しております。外部有識者の方から、地域への信用供与の円滑化や地域経済活性化に向けた経営戦略など、客観的な立場で評価および助言・提言をいただいております。助言等は経営に反映することで経営の客観性と透明性を高めてまいります。第13回の同委員会では平成27年7月に開催し、経営強化計画の履行状況報告書（平成27年3月期）について、各委員の皆様からご意見等をいただきました。概要は当行ホームページでご覧になれます。

〈構成委員〉 (五十音順、敬称略)

| 委 員 名 | 公職・役職等                        |
|-------|-------------------------------|
| 児嶋 眞平 | 京都大学名誉教授、福井大学名誉教授、元福井大学学長     |
| 増田 仁視 | 元福井経済同友会代表幹事、増田公認会計士事務所所長     |
| 山本 雅俊 | 元福井県副知事、元公益財団法人ふくい産業支援センター理事長 |

## 経営の組織

■ 組織図 (平成27年6月30日現在)





# 地域のお客さまとともに

## ■ お客さま感謝デーの開催

日頃のご愛顧に感謝を込めて、全店でお客さま感謝デーを開催いたしました。



春江支店のお客さま感謝デー

## ■ CSRの取組み

### 【金融教育への取り組み】

「子育て応援バンク」として、地域のお客さまの子育てを金融面から応援する目的で、地元小学生を対象とした営業店での職場体験や、地元団体等が企画する職場体験に参加するなど、地元小学生に対する金融教育を定期的の実施しています。



子どもお仕事体験

### 【子育てモデル企業として認定】

女性が「子育て」と「仕事」を両立しながら、職場で能力を発揮できる職場環境が求められているところであり、福井県では「子育て」支援の取組みが評価できる企業として認められ、当行は「平成26年度子育てモデル企業」として認定されております。



福井市での認定式

### 【地域見守り活動に関する協定の締結】

擁護を必要とされるお年寄りの方々等、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう広域的な見守り活動の協定を、福井県鯖江市・越前市・小浜市の3市と締結しました。当行行員が業務中にお年寄り等、擁護を必要とされる方に何らかの異変を察知した際、各市の社会福祉課等に連絡するネットワーク活動となっております。



越前市との調印式



鯖江市との調印式



# 地域密着型金融の推進

当行では従来、お客さまとの間で長く続いた親密な関係を強化・維持し、ニーズに応じた金融サービスを提供する地域密着の推進を基本としております。主に、地元福井県での存在感を高め、かつ福井県の経済活性化に貢献できるよう、中小規模事業者等との恒常的な関わりを通じて、相談できる信頼関係を築き、経営課題を共有しながら成長・発展に向けた改善策を提案し、コンサルティング機能の発揮により円滑な信用供与に努めております。

また、同時に、中小規模事業者等のライフステージ（発展段階）や事業の持続可能性等を適切に見極め、最適なソリューションの提案に取り組んでおります。

## 1. 中小企業の経営支援に関する取組み状況

### 【創業・新事業開拓の支援】

○認定支援機関と連携し、「ものづくり補助金」、「創業補助金」、「ふるさと企業育成ファンド」等の公的制度を利用した事業化支援

○農業活性化に向けた日本政策金融公庫との協調融資

| 創業・新事業開拓支援 | 上期  | 下期  |
|------------|-----|-----|
|            | 26先 | 36先 |



新ものづくり個別相談会

### 【成長段階における更なる支援】【事業再生支援】

○公益財団法人ふくい産業支援センターと連携した移動経営相談会の実施

○一般社団法人福井県中小企業診断士協会と連携した定例経営相談会の実施

○近畿経済産業局、福井県発明協会と連携した「知財ビジネスマッチング事業個別商談会」の実施

○中小企業再生支援協議会、認定支援機関、外部コンサルタント等と連携した事業再生支援

| 経営相談・早期事業再生支援 | 上期   | 下期   |
|---------------|------|------|
|               | 186先 | 175先 |



知財ビジネスマッチング事業個別商談会

### 【事業承継支援】

○業務提携する株式会社日本M&Aセンター、株式会社スターシップホールディングスとの連携による事業承継支援

○公益財団法人ふくい産業支援センターと連携した移動経営相談会の実施

| 事業承継支援 | 上期 | 下期 |
|--------|----|----|
|        | 5先 | 2先 |

# 地域密着型金融の推進

## 2.地域の経済活性化への積極的な支援

### 【成長分野への支援】

- 「ふくほう医療・介護チーム」による医療・介護・健康関連分野への取組み強化
- 新事業展開・新商品開発に向けた公的補助金等の提案・支援
- 福井県立大学地域経済研究所、JETRO福井、JICA北陸支部と連携による海外情報提供支援

### 【ふるさと企業育成ファンド】

- 福井県に本店を置く金融機関と福井県が創設した地域独自のファンド「ふるさと企業育成ファンド」(新分野展開スタートアップ支援事業)(ものづくり人材育成修学資金貸付事業) の活用

### 【子育て応援バンクの取組み】

- 金融教育普及を目的に、地元小学生を対象とした「職場体験学習」の実施
- 子育て家族に対する応援
  - ・金利上乘せ定期預金「子育て応援定期預金」の販売
  - ・個人ローンの金利割引
  - ・児童手当受取口座に対するATMでの振込・利用手数料キャッシュバック



職場体験学習



体験教材

## 3.地域や利用者に対する積極的な情報発信

- 株主の皆さま、お客さまおよび地域社会の皆さまに当行の経営に対する理解を深めていただき、経営の透明性を確保することを目的として、プレスリリースやディスクロージャー誌、ホームページの掲載を通じて、迅速かつ充実した情報開示に取り組んでまいります。

## 4.目標計数の達成状況

(単位：先数)

|                 | 平成26年上期 |     |      | 平成26年下期 |     |      |
|-----------------|---------|-----|------|---------|-----|------|
|                 | 目標      | 実績  | 目標対比 | 目標      | 実績  | 目標対比 |
| 経営改善支援等取組先数     | 268     | 309 | +41  | 271     | 295 | +24  |
| 創業・新事業開拓支援      | 26      | 26  | ±0   | 28      | 36  | +8   |
| 経営相談・早期事業再生支援   | 148     | 186 | +38  | 148     | 175 | +27  |
| 事業承継支援          | 2       | 5   | +3   | 3       | 2   | △1   |
| 担保・保証に依存しない融資推進 | 92      | 92  | ±0   | 92      | 82  | △10  |